

早池峰山周辺地域におけるニホンジカ対策

東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署 地域技術官 ○服部 飛鳥
地域技術官 大和田 洗希

1 課題を取り上げた背景

遠野市内では、近年狩猟等によりニホンジカ(以下「シカ」という。)の高い捕獲圧を維持(表1)しているが、早池峰山周辺地域ではシカの生息密度が高まり、シカによる生態系及び農林業への被害防止が喫緊の課題となっています。このため当支署では①岩手県及び三陸北部支署と連携した早池峰山における植生保護柵の設置(H30FY～)、②捕獲事業(H28FY～)、捕獲支援として、③林道除雪(H24FY～)及び④協定に基づく地元猟友会等へのワナの貸与(H30FY～)を実施。本研究ではこれらの取組を検証し、今後の課題及び対応方向を検討・提示します。

(表1:遠野市内におけるシカの捕獲頭数(頭))

年度	H28	H29	H30	R1
市の有害捕獲(4～10月)	951	1,264	1,425	1,858
県指定管理鳥獣捕獲等事業(11～2月)	879	1,425	930	1,002
一般狩猟(11～3月)	210	212	137	205
合計	2,040	2,901	2,492	3,065

2 取組の概要及び結果

①植生保護柵は、早池峰山の頭垢離周辺にH30FY～R1FYで延長200mを設置し、延長100mの荷上げ及び設置に約27人工、維持管理(春と秋のネットの上げ下げ)に各4人工を要しました。R1FYでは地形・地質の制約により150m延長の計画が100mの延長にとどまりました。なお、植生保護柵設置による高山植物の保護効果については保護林モニタリングや専門家の調査により今後検証される予定です。②シカの捕獲実績は、H28・H29FYには大型囲いワナ1基で1頭、H30FYには小型囲いワナ4基で1頭、同賃借事業では4～

5月に小型囲いワナ6基で6頭、くくりワナは16基を設置したが、クマを錯誤捕獲したためリスクが高いと判断し短期間で中止し、シカの捕獲は3頭のみ。③林道除雪については、遠野市内におけるH30FYの林道除雪路線が含まれる狩猟マップのメッシュの平均捕獲頭数が102頭に対し、全体平均は31頭であり有意の差が認められます。④ワナの貸与は、H30FYから小型囲いワナ4基を遠野猟友会に貸与しているが捕獲実績はなし。R1FYには、クマの錯誤捕獲リスクが低いバネなしくくりワナ「いのしか御用」を遠野猟友会に50基、花巻猟友会に30基貸与し、R2FYの有害鳥獣捕獲期から本格的に使用されています。

3 課題と今後の対応方向

①植生保護柵の設置効果は今後の検証待ちですが、人工数の検証から、既設置の保護柵を春秋に維持管理することは支署単独で実行可能、新規・延長設置は支署単独では困難で隣接支署との相互応援等により対応していく必要があると判断しました。これに基づき、R2FY実績で国と県での総延長を1,490m(前年度850m)に拡張(△640m)。②国事業でのシカ捕獲は、狩猟等(有害鳥獣捕獲、指定管理事業及び一般狩猟)による捕獲に比べると捕獲実績が少なく、狩猟者等の立入を禁止してまでの捕獲実施は逆効果なので、入林を規制する生産事業実施区域、狩猟等が期待できない区域(早池峰山麓等)や時期において補完的に実施する等、シカ対策全体を踏まえた取組のすみ分けが重要。③林道除雪は実施効果が高いと認められるので、今後も継続していく。④ワナの貸与では、効率的なシカの捕獲とクマの錯誤捕獲防止の観点から、いのしか御用の運用について、R2FYで特に注視しています。なお、R2FY現時点での捕獲頭数は、4～6月の当支署直轄の捕獲事業で22頭、8月時点のワナ貸与により55頭と好調であり、同時点でのクマの錯誤捕獲もありません。